



井原市民病院だより

No.37

井原市の花 パンジー

2018年11月発行

日本医療機能評価機構 病院機能評価 3rdG:Ver1.0 認定

地域とともに歩む、 より愛される病院を目指して



皇帝ダリア

Mission (使命)

地域住民の尊厳を守り、命を守り、
健康増進を支援する

Vision (将来展望)

いつでも安心してかけられる、
身近で愛される急性期病院

Ibara City Hospital

井原市立井原市民病院

〒715-0019 岡山県井原市井原町1186番地
TEL 0866-62-1133(代) FAX0866-62-1275(代)
E-mail byouin@city.ibara.okayama.jp

診療科目

内科・循環器内科・外科・消化器外科・整形外科・眼科
小児科・脳神経外科・放射線科・麻酔科・耳鼻咽喉科
リハビリテーション科・婦人科・泌尿器科・皮膚科
救急科

発行責任者：合地 明

まいづる保育園遊戯室 完成式

事務次長 田平 雅裕



平成30年4月16日(月)、森永忠義井原市民病院運営協議会長を来賓にお迎えし、園児、保護者代表と病院関係者の出席のもと、まいづる保育園遊戯室完成式を行いました。

まいづる保育園は、院内保育所として平成22年1月に開所しましたが、これまで園児が運動や遊べる遊戯スペースがありませんでした。このため、平成29年度整備において、保育環境の改善を図るとともに、職員が安心して働きやすい職場づくりに努めるべく、保育所2階を遊戯室に改修



したものです。

完成式は、合地院長、山田正人井原市健康福祉部長のあいさつに続き、森永会長から祝辞を賜り、園長のあいさつのあと全員で記念撮影を行いました。式後は、園児たちが、早速、新しく整備したすべり台などの遊具で遊び楽しんでいました。なお、改修にあたり床や壁面の材料は、園児が安心して遊戯ができるよう安全に配慮したものを使用しています。



平成30年4月からまいづる保育園2階にプレイルームができました。

これまでは、1階の保育スペースのみで子どもの遊びのスペースが十分とれませんでした。広々とした空間にすべり台などの遊具があり、ボール遊びをしたりマット運動をしたりと子どもたちは喜んで遊んでいます。また、リトミックでも広いスペースを有効に使って体を動かしています。

園庭がないのでこういった体を動かして遊べるプレイルームを作っていただき、嬉しく思っています。

保育士 虫上 亜沙美



NST 看護部嚥下ワーキンググループ

○倉敷 NST 研究会 一般演題発表



平成30年7月3日 倉敷アイビースクエア、フローラルコートにて第43回倉敷NST研究会が開催されました。「当院における摂食嚥下の取り組み～摂食嚥下プロジェクト～」と題して一般演題の部で発表し

ました。

当院で言語聴覚士2名が同時期に産休、育休に入る

ことになり、長期に摂食嚥下の専門職が不在になるというピンチを看護部でカバーしていこうという取り組みについての内容です。NSTリンク看護師が中心となり、看護部全体で入院患者さんの安全な食事摂取ができるようにという目的で、摂食嚥下評価シートの開発、摂食嚥下の訓練を研修、嚥下新聞の発行、NST委員会で実施している嚥下回診等について実際の取り組みについて発表しました。今後もこの取り組みを活かして、看護部全体で安全な摂食嚥下ができる食事介助ができるように引き続き研鑽を積んでいきたいと思ひます。

ハラスメント研修

副看護部長 渡邊 栄子



平成30年9月26日(土)岡山県医療勤務環境改善支援センター医療労務管理アドバイザー、ハラスメント防止コンサルタントで特定社会保険労務士の富永優子先生をお招きして、『「明るい職場をつくれるか」～職場ハラス

メント対策～』と題して研修を実施しました。

職場のハラスメントとは、「同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的、身体的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為」と定義とされます。

院内教育委員会では、職場環境のあらゆる問題の中で職場環境を悪化させる原因であるハラスメントの問題に着目し、職場のハラスメント対策において職員一人ひとりの意識は本当に変わっているのか。ハラスメントの基礎を学び、応用を考えていくことにより、真の明るい職場づくりに必要なことは何かを学ぶことを目的として全職員対象とした本研修を企画しました。

研修内容は、職場のパワーハラスメント(以下パワハラ)の現状・背景・パワハラとはどういうことか?パワハラ典型的な行為、考え方の例題を踏まえて学び、パワハラが及ぼす影響などの基礎的なことを学び、更にパワハラと指導の違い、管理職からのパワハラ予防など予防の留意点についても講義いただきました。最後に先生のマネジメントによる寸劇で典型的なパワハラを受けるシーン、問題事例に適切に対応するシーンの2つ例を職員の代表が演じ、その演技力に笑いも混じり和やか雰囲気講義が終了しました。



職員の感想として、「今までにない勉強で新鮮だった」、「日頃から人間関係をよくしていけないと思った。同じ言葉でも日頃のコミュニケーションでパワハラに感じるかどうか違ってくることが興味深かった」などの感想がありました。

この研修が当院のこれからの明るい職場作りの教示となり、働きやすい職場を職員皆で築けるよう努力していきたいと思ひます。



接遇向上キャンペーンを実施

臨床検査技師 出原 啓美

2018年7月

当院には約30の委員会があります。

その中でも、『医療はサービスである』という基本概念のもと、患者さんが過ごされる療養環境の整備や職員の接遇向上を目的に院内ラウンドの実施、研修会の開催をしているのが療養環境整備委員会です。この度、委員会メンバーの発案で『接遇向上キャンペーン』を実施したので、職員の感想と合わせてご報告いたします。

2018年7月、朝当院に出勤する職員への「声掛け・チラシ配り」を実施しました。おそろいのベストを着用した委員が配る合地院長の顔写真入りのチラシを目にした職員は、一様に「何ごと？」と、驚いた表情でしたが、キャンペーンの趣旨を理解すると「分かりました、気をつけます。」などと、引き締まった表情に変わりました。職員は皆、常に接遇への意識をもって業務に臨んでいますが、どうしても患者さんとの付き合いが長くなってくると「親しみやすさ」という思い込みのもとに、つい失礼な言葉を使ってしまう現状があります。委員会では、患者さんに気持ちよく当院を利用していただき、職員と患者さんとの信頼関係を築く上でも、職員の接遇レベル向上の課題は重要だと考えています。

具体的には、職員に「語尾に『です・ます』、『ごめんねー』の発言をやめよう！」と促していますので、もし、馴れ馴れしい言葉使いをする職員がいたら遠慮なく注意してやってください。

今回のキャンペーン活動が、少しでも職員の接遇意識の向上につながるものと信じています。これからも、当院の活性化や、地域医療の維持・発展のために、職員一同、尽力を注いでまいります。お気づきのことがございましたらお気軽にお声がけ下さい。



接遇向上キャンペーンを通じて

3階病棟看護師 安中 千恵

2018年7月



ある日の朝いつもの通り出勤すると、当院の出入口で何人もの職員が笑顔の挨拶で出迎えてくれました。「なにごと!？」と、戸惑いましたが、療養環境整備委員会の方々がスタッフの接遇向上のためにキャンペーンを実施しているのだと分かり、「ドキッ」としました。

普段、接遇に気を付けて患者さんと関わろうと思っ

ています。ついついタメ口(友達同士で使う様な言葉)になってしまうことがあります…。自分では「親しみやすさ」だと思い込んでいても、相手からしてみれば「なれなれしい」軽率な言葉遣いになってしまうものだと思います。現に「丁寧に対応してもらえて良かった」という声は頂きますが、「友達同士みたいな言葉遣いで良かった」と言われたことはありません。

今回の接遇向上キャンペーンを通じて、自分と患者さんの立場・感覚の違いをわきまえて親切丁寧に関わっていくことが、良い関係や良い医療を構築していく第一歩なのだと、改めて感じることができました。



患者さんへ提供する医療サービスに関する事務、いわゆる医療事務を行っている部署を、医療事務課を略して医事課といいます。医事課では、患者さんと直接接して受付や応対を行う接客業務と、診療費の計算並びに診療報酬請求書を作成し、社会保険や国民健康保険の保険者に請求を行う保険請求業務の大きく2つの業務を行っています。

接客業務では、病院の最初の窓口として、来院された方に良い印象を与え、より良い信頼関係を築くことが出来るよう、笑顔で親切丁寧な接遇を行うよう心掛けています。

また、保険請求業務では、診療報酬点数表に基づき正確な医療行為の計算を行い、費用の請求・徴収に努めています。豊富な知識が要求され、専門性に特化したとても重要な医事課の中心的業務です。

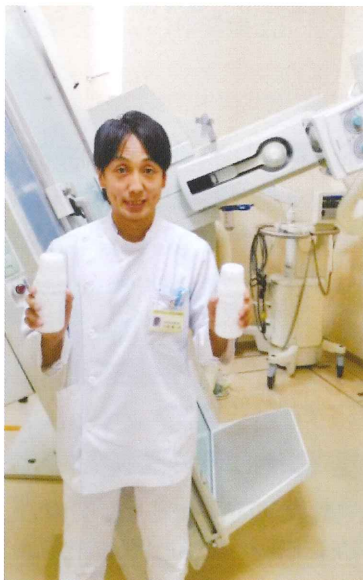
その他、入院病棟にて医師や看護師のサポートを行い、入院されている患者さんが安心して治療を行って頂けるよう事務的な面から支援する病棟クラーク業務

や診療報酬の基礎となる施設基準の管理や病院運営のための企画・提案などを行っています。

病気だけでなく、様々な医療制度や医療費など、不安要素をたくさん抱えている患者さんも多くいらっしゃいます。少しでもこれらの不安を取り除くお手伝いができるよう、これからも日々研鑽に励んでいきたいと思ひます。



「胃がんX線検診技術部門B資格」を取得



平成29年度の「読影部門」に引き続き、今回、「胃がんX線検診技術部門B資格」を取得いたしました。

わが国日本では、昔から「胃がん」は国民病の一つと言われていいます。現代でも毎年13万人以上の日本人が新たに「胃がん」を発症し、毎年5万人ほどの日本人が「胃がん」によって亡くなっています。しかし現代の医療技術等の進歩によって、「胃がんは、初期段階で発見できれば完全に治る病気」になっています。胃がん検診の分野でも、1cmにも満たない微小な初期胃がんや、ピロリ菌感染等の発見を求められるようになってきました。しかし、これらの発見には高度な撮影や読影技術や、専門的な知識などが必要です。

そこで、私もこの地域の医療・健康等を支える一員として、これまで胃がんX線検診（バリウムを飲んで胃を撮影する検査）についての学習を重ねてきました。

その結果、今年度は「胃がんX線検診技術部門B資格検定」に合格いたしました。この資格は「NPO法人日本消化器がん検診精度管理評価機構」が施行しているもので、主に検診業務に関して志の高い放射線技師等が取得しています。

この資格を得るために習得した知識や技術を活かして、これからも受診者の方々に安心して、高度な検診を受けていただけるように、なお一層努力してまいります。

また、当院で主に胃がんX線検診で利用するX線TV装置について、老朽化にともない、平成30年3月に「キャノン社製・ZEXIRA 17×17」に更新いたしました。この装置は多くの検診施設等で使用されていますので、当院でもそれらの施設の画像処理等の技術を参考にさせていただいて、より安全で高精度な検査を提供してまいります。何か気になること等がありましたら、いつでもお気軽にお問い合わせ下さい。



新人の紹介

名前 (職名) 担当科 ①抱負 ②特技



木村 紘爾 (医長) 外科
①患者さん一人一人に合わせた丁寧な治療を心がけています。
②読書 歴史系が好きです。



勝田 秀樹 (薬剤師) 薬剤科
①慎重かつ大胆に頑張ります。
②ジョギング (最近はずれていないですが (笑))



秋田 拓也 (社会福祉士) 地域医療連携室
①各専門職と連携し退院の支援を行えるよう頑張ります。
②ダーツ 時間があれば投げに行ってます。



南 加奈恵 (調理師) 栄養管理科
①安心安全な栄養提供が出来るよう日々心掛け、仕事に取り組みたいと思います。よろしくお願いします。
②旅行の計画を立てるのが好きです



堀 尚子 (看護師) 外来
①「仕事と育児を両立しながら早く仕事に慣れるように頑張ります。
②バトミントンをしています。



安中 千恵 (看護師) 3階病棟
①少しは経験ありますが、一からのつもりで頑張ります。よろしくお願いします。
②ジムで体を動かす事が好きです。



高橋 恵 (看護師) 3階病棟
①明るく元気に頑張ります。
②趣味：食べること
甘いものから辛いものまで何でも大好きです。美味しいお店を教えてください。



佐藤 凜歩 (看護師) 3階病棟
①患者さんやご家族の方の思いに寄り添える看護師になれるように頑張ります。
②どこでも寝れることです。



山口 真智子 (看護師) 3階病棟
①病棟勤務は久しぶりなので色々迷惑をおかけすると思いますが、新しい環境に1日も早く慣れ、笑顔で楽しく仕事出来るよう努力しますのでよろしくお願い致します。
②貯金と節約です。



沖藤 恵 (看護師) 4階病棟
①かかわらせていただく感謝の気持ちを大切に笑顔で頑張ります。
②楽器：ピアノ・アルトサックスを趣味でしています。手話：勉強中です。
ドライブ：気分転換に出かけておいしいものを食べるのが好きです。
おすすめのお店があれば教えてください。



前原 彩香 (看護師) 4階病棟
①チームの一員となり、働けるように頑張ります。
②お弁当作りを頑張っています。簡単に作ることで出来るおかげがあれば教えてください。



山口 盛 (看護師) 4階病棟
①笑顔と元気を大切に看護を行っていきたいと思っています。早く1人前になれるよう日々研鑽し頑張ります。
②ほふく前進 (特に第三ほふく)、航空機鑑賞。



岡田 八重 (看護師) 4階病棟
①慣れない事ばかりで不安も多いですが、気持ちも新たに頑張りたいと思います。いつも笑顔をもっとに頑張ります。
②猫が大好きです。自宅で飼っているソマリを溺愛しています。読書：唯川恵の作品が好きです。



永井 仁 (看護師) 4階病棟
①家庭と仕事の両立を頑張りたいです。
②スケをしていましたが今は何もできません。



菊地 章（総務課） 総務課主任

①病院に骨を埋める覚悟で、市役所から出向してきました。気合いは十分。空回りしないように頑張ります。

②お菓子作り（饅頭作りが得意）



渡邊 美穂（医師事務作業補助者） 診療情報管理室

①仕事と家庭を両立しながら子供と旅行にも行きたい

②神社めぐり



佐々木里英子（医師事務作業補助者） 診療情報管理室

①いつも笑顔で、明るく接していきたいです。今までの経験を活かし仕事の幅を広げていければと思います。

②ショッピング、ドライブ、美術鑑賞、バドミントン



第30回岡山県作業療法士学会 優秀賞受賞

リハビリテーション科
作業療法士

佐野 裕和

平成30年3月10日、11日に岡山大学で開催された第30回岡山県作業療法士学会で優秀賞を受賞することができました。本学会は作業療法士の学術・技能の研鑽に努め、作業療法の普及発展を図り、県民の健康と福祉の向上に資することを目的に毎年開催されています。今回は、一昨年まで在籍していた吉備国際大学大学院での研究を基に発表を行いました。この研究では、井原市内の要支援高齢者やリハビリ職の方にご協力いただきました。ご協力いただいた皆様に感謝するとともに、研究の成果を日々の作業療法に生かしていきたいと強く感じました。

【研究の結果】

本学会では、要支援高齢者133名のアンケート結果を分析し、「要支援高齢者の役割遂行が健康関連QOLに及ぼす影響」というテーマで発表しました。研究を通して、要支援高齢者は加齢や疾病、取り巻く環境の変化によって過去に比べて役割の数が減ることが分かりました。しかし、現在、担っている役割が少なくても、その役割の満足感が高いと主観的な健康が高いということが明らかになりました。特に仏壇や神棚に手を合わせる、家事といった役割を満足に行うことが精神的な健康を高めるとことが示唆されました。

【要支援高齢者の日常生活における役割のポイント】

要支援高齢者の役割の減少については本人の影響だけではなく、家族等の周りの人も影響を与えています。「危ないから何もしなくても良いから」という周りの人の配慮が、結果的に役割を奪い、生活不活発の状態につながる場合があります。また、役割には、しなければならないという義務的な要素も含まれるため、単に役割を行うだけでは、健康が高まらない可能性があります。

ます。

役割の満足感を高め、健康を高めるポイントは2つあります。1つ目は作業の工夫をすることです。例えば、調理という役割には道具を運ぶ、材料を切る、煮る・炒めるといった複数の工程があります。そのため、各工程の方法や動作を工夫することで作業が安全で効率的に可能となり、役割の満足につながります。2つ目は家族等の周りの人が役割を行うことを期待したり、賞賛したりすることです。周りの人からの肯定的な声かけにより、やってみようという意欲や達成感につながり、役割の満足感が高まります。

福祉という言葉は「普段の暮らしのしあわせ」と言い換えられることがあります。今回の研究結果から分かるように要支援高齢者の健康を高めるためには、特別な役割を行うのではなく、日常的な役割を満足に行うことが大切です。作業療法士は普段の暮らしを支える専門家なので、今後も市民の皆様の健康増進に一生懸命取り組んでいきたいと思っています。



吉備国際大学大学院、恩師の籾脇教授（左）とともに

職員ボーリング大会

放射線科 小森 陽一郎

井原市民病院の職員親睦会『むつみ会』体育娯楽部企画による職員ボーリング大会を平成30年6月21日福山市にて開催しました。

今回は、新入職員も加わり楽しいひと時を過ごすことができました。

当院ボーリング大会に参加して



佐藤 凜歩
(3階病棟看護師)

皆さま初めまして！
今年度から社会人1年生として当院3階病棟にて勤務させていただいております佐藤凜歩

と申します。社会人になって3ヶ月ほどが経ちましたが、学生の時とは違って、慣れない事が多いので大変ですが、患者さんやご家族の方々の笑顔や、「ありがとう。」という言葉に支えられながら、日々奮闘しています。また、先輩方にも優しく指導していただき学びの多い充実した日々を過ごしています。

今回、当院伝統のボーリング大会に参加させていただきました。久しぶりのボーリングはガターばかりでしたが、そんな私に先輩方が、「こういうふう投げたら良いよ。」とアドバイスを下さったので、なんとスペアを取る事が出来ました！！その時同じレーンだった他部署



の先輩方ともハイタッチを交わして、一緒になって喜んで下さったので本当に嬉しかったし、良い思い出になりました。

当院で仕事をしていくうえで他職種の方々と関わることは多々ありますが、今回初めて話をさせていただく方々も多くいらっしゃったので緊張しました。しかしボーリングを通じて一緒に盛り上がり、多くの方々が声をかけて下さったので本当に嬉しかったです。普段あまり運動もしないので、久しぶりに身体を動かして良いリフレッシュも出来ましたし、とても良かったです。

これからも他職種の方々と協力し合い、先輩方の力をお借りしながら、患者さまやご家族の方々の思いにより添える看護師であり続ける事が出来るように、日々努力していきたいと思っております。皆さま今後ともよろしくお願いたします！！

糖尿病教室・健康教室・子育てサロンのご案内

■糖尿病教室(毎月第1水曜日 11時30分～ 外来待合ホール)

日時	テーマ	担当
12月5日(水)	「おさえておきたい年末年始の食事のポイント」	管理栄養士
2月6日(水)	「糖尿病とフレイル(要介護予防群) ～体を動かして予防しよう～」	理学療法士



■健康教室(偶数月第3水曜日 11時30分～ 外来待合ホール)

日時	テーマ	担当
12月19日(水)	「おしっこが語るあなたの食生活～尿検査からわかること～」	臨床検査技師
2月20日(水)	「コレステロールを下げる食べ方はコレ！！」	管理栄養士

■子育てサロン(毎月第2水曜日 13時30分～ 外来待合ホール)

日時	テーマ
1月 9日(水)	「お薬について聞いてみよう ～効いているのかな？良い飲み方って？～」
2月13日(水)	「子育て今・むかし ～あるある世代間ギャップ ウソ？ ホント？～」
3月13日(水)	「お母さん・お父さんの気持ち座談会 ～みんなで少しずつ「親」になろう～」

